

特別支援学級 自立活動 単元指導計画

単元名 なかよくあそぶためには	日 時	令和5年10月25日（水） 5時間目
主教材：「友達と協力してクイズをとこう」	対象学級	遠野北小 ステップ・すずらん教室（6名）
	授業者	T1 教諭 小田島 充 T2 教諭 菊池 佳奈子

1 単元の目標

- (1) 集団参加の基礎を養う。
- (2) 状況に応じたコミュニケーション能力を養う。

〔児童について〕

本校の特別支援学級は、知的障がい学級に4年生1名、5年生2名、6年生3名の計6名が在籍し、自閉症・情緒障がい学級には、3年生1名、6年生1名が在籍しており、合計8名の児童を担任2名で指導している。

どの児童も人なつっこく、人と関わることが好きな反面、相手の気持ちを気にかけず、自分の思いだけで接したり、周りの状況や雰囲気を察することなく思いのまま行動したりすることが少なくない。そのため、自分の言いたいことは言うが、友達の話を聞くことができない、会話がかみ合わないなど、言葉不足で誤解を生むことがある。お互いの意図が伝わらないままになんとか遊んでいることも多い。また、先生に対して、自分の気持ちを伝えることが難しい児童もいる。このような要因として、語彙数が少ないことや相手に分かってもらおうという意識、相手の話を聞いてあげようという意識が低いこと、適切な言動の仕方が分からないことなどが考えられる。

そこで、友達との関わりや交流担任とのやりとりでは、教師が橋渡しをするなどの支援をしている。

〔教材について〕

教育課程の中で自立活動を位置付け、個々の課題克服や得意な部分を伸ばすなどの学習を重ねている。そうした中で個々の課題解決には、小集団を利用した指導を行うことが効果的であると考え、小集団で行う時間をここ数年設定してきた。

今年度も、年間3種類の小集団指導を計画し、自立活動の時間の中で、コミュニケーション能力などを養っていきたいと考えている。

そのため、自立活動6区分の「3 人間関係の形成（4）集団への参加の基礎」（以降「3（4）」と表示）と「6 コミュニケーション（5）状況に応じたコミュニケーション」（以降「6（5）」と表示）の2つを関連付けた授業を展開していこうと考えている。

〔指導にあたって〕

6人とも言語でのコミュニケーションはとれるが、言い方が分からず戸惑ってしまう場面や肝心な時に相手に伝わるような声で話すことが出来ないことが多い。また、自分の言いたい時は発言するが、友達の発言を聞くなどの待つ時間が苦手である。そのため、1年間を通して、語彙数を増やす学習や場面に応じたコミュニケーションを意識する活動を行っていききたい。

そこで、Ⅱ期では、「ヒントゲーム」を行う。黒板を背にして回答者が座り、黒板に貼られた絵を回答者が周りにいるヒントを出す人（ヒント者）に質問し、自分に必要なヒントをもらい、絵を当てるというゲームを行う。回答者は知りたいことを質問する必要性とヒント者は、質問された事項に対するヒントを考える必要性が生まれる。また、ヒント者にはヒントを言う順番が分かるようにして、同じ子どもだけが発言する場面を少なくしたい。必然的に友達へ働きかけ、どんな言い方をすればよいのかを考えさせながら、お互いを意識した会話を行わせたい。

2 本単元（Ⅱ期）で付けたい力

児童	単元に関わる児童の実態	Ⅱ期で付けたい力	手立て
A児 3年情 (女子)	<ul style="list-style-type: none"> ・慣れた人や場所では、自分の思いを話すことができる。 ・自分が不利になる場面は苦手で、自分から助けを求めることが難しい。 ・慣れない場面では、相手に伝わる声で話す事が難しい。 	<p>回答するために、友達からヒントをもらう。</p> <p style="text-align: center;">【3（4）】</p> <p>友達に伝わるような声でヒントを言ったり、質問したりする。</p> <p style="text-align: center;">【6（5）】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日常の中でみんなの前で話す場面を設定する。 ・ヒントをもらう事が助けを求める一つであることを知る。

B児 4年知 (女子)	<ul style="list-style-type: none"> 表情は硬いがたくさんの人の中で生活することに楽しさを感じている。 慣れない場面や相手に対しては、話すことが難しくなることがある。 	<p>回答するために、友達からヒントをもらう。</p> <p>【3(4)】 友達に自分の思いを伝えようとする。</p> <p>【6(5)】</p>	<ul style="list-style-type: none"> 日常の中でみんなの前で話す場面を設定する。 様々な場面を経験させ、色々な人と関わるようにする。
C児 5年知 (男子)	<ul style="list-style-type: none"> 語彙数は少ないが、自分の要求などを伝えようとする。 気分が左右され、集団活動から外れることがある。 興味があることには積極的に会話することができる。 衝動的に話したいときに話すことが多い。 	<p>言いたいことを衝動的に話すことなく、順番を守り話す。</p> <p>【3(4)】【6(5)】</p>	<ul style="list-style-type: none"> 日常の中で、相手の応答を確認するように声をかける。
D児 5年知 (女子)	<ul style="list-style-type: none"> 常に笑顔でいるが、自分の気持ちを伝えることは難しい。 周囲への注意や指摘は積極的に行うことができる。 世話好きで面倒見がよい。 	<p>自分の思いや考えを話型に沿って話そうとする。</p> <p>【6(5)】</p>	<ul style="list-style-type: none"> 日常の生活でみんなの前で話す機会をつくる。 話型を元に話すことを練習する。
E児 6年知 (男子)	<ul style="list-style-type: none"> 慣れていない環境では自分の気持ちを伝えることが難しい。 語彙数が少なく、覚えた言葉を場に関係なく使うことがある。 誰かが話している時に待てずに思ったことを言ってしまうことがある。 	<p>自分の思いや考えを話型に沿って話そうとする。</p> <p>【6(5)】</p>	<ul style="list-style-type: none"> 日常の生活でみんなの前で話す機会をつくる。 話型を元に話すことを練習する。
F児 6年知 (女子)	<ul style="list-style-type: none"> 自己主張できるが周囲に合わせた言動をすることが難しい。 慣れた相手や場所では、思いのまま話してしまうことがある。 友達の発表の間、興味がないと自分の好きなことをしている。 	<p>相手の気持ちを考えながら、会話する意識をもつ。</p> <p>【6(5)】</p>	<ul style="list-style-type: none"> 日常の生活でみんなの前で話す機会をつくる。 友達の発表を聞きながら、適切なヒントを出すように声をかける。 適切な言い方を提示する。

3 単元の活動計画 (全9時間)

期	時間	学習活動	支援のポイント
I期 5月～7月	3時間 〔45分×3〕	「ぬりえをしよう」 ・やり方を知る。 ・話すためのことばを考える。 ・ことばのやり取りの仕方を意識する。	<ul style="list-style-type: none"> どんなことばかけがよいか、共通理解する。 毎時間、個人ごとの振り返りをする。
II期 8月～10月	3時間 〔45分×3〕 2/3	「ヒントゲームをしよう」 ・ゲームの仕方を覚える。 ・ルールの確認をする。	<ul style="list-style-type: none"> 自分の知りたい情報を得るためにどんな質問をするか考える。 自分の順番が来てから話すことを意識する。 毎時間、個人ごとの振り返りをする。
III期 1月～3月	3時間 〔45分×3〕	「グループパズルをしよう」 ・ゲームの仕方を覚える。 ・ルールの確認をする。	<ul style="list-style-type: none"> 個々では難しい児童も活動できるようにグループでの相談時間を多くとる。

4 めざす資質・能力とその手立て				
自分の考えをもち表現する				
「自分の考えをもち表現する」 <ul style="list-style-type: none"> ・前時の振り返りをする中で、これまでの経験を思い出し話す姿。 ・質問の例などを参考に、知りたい情報を得ようとする姿。 ・友達の質問に対するヒントを考え、伝える姿。 ・自分の活動を思い出し、話型を参考にするなどして自己評価の理由を話す姿。 				
5 「2つの視点」による授業改善				
視点1「課題意識の持続」		視点2「達成状況の把握」		
① 共通のめあておよび個々のめあてを確認し、具体的なゴールを示す。 〈1時間の見通しをもつ（ゴールを示す）〉 ② 自己肯定感を持たせる教具の工夫。 〈グリーンカードの提示〉 ③ 共に学ぶ場の工夫。 〈単元設定〉		① 児童の言動をグリーンカード等で把握する。 〈達成状況把握の手立ての明確化〉 ② 個人目標を理由と一緒に振り返らせることで、児童による自己評価を把握する。 〈振り返りの工夫〉		
6 本時の展開				
(1) 目標				
① 友達と協力し、必要な情報を得たり、伝えたりすることができる。 ② ルールを理解して楽しく活動に参加する。				
(2) 展開				
段階	学 習 活 動	指導および支援上の留意点	備 考	
導入 15分	1 あいさつをする。 2 活動の見通しをもつ。 (1) 全体のめあてを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;"> 友達と協力して、クイズの答えを考えよう。 </div> (2) ルールの確認をする。 (3) どんな言い方をすると良いか確認する。	・ 1時間の流れを表示し、見通しをもたせる。 【視点1：課題意識の持続①】 共通のめあてを確認し、具体的なゴールを示す。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 全員で声を出すことで、リラックスさせる。 ・ T2は、話す人に身体を向けるように声をかける。 ルールの確認を簡単に行う。 <ul style="list-style-type: none"> ○ 回答者とヒント者の役割があること。 ○ 回答者は自分の知りたいことをヒント者に質問すること。 ○ ヒント者は自分の順番が来た時にヒントを話す事ができること。 ○ 自分の番でヒントを出せない時は、他の人にゆずることができること。 資・能：自分の考えをもち表現する場面 前時の振り返りをする中で、これまでの経験を思い出し話す姿。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 前時で使った質問を思い出させる。 (「大きさ」「形」「どんなところで使うか」など) ・ ヒントで使った言葉を思い出させる。 (「～と同じくらい大きさ」「細長い形」など) ・ 前回有効だった言葉を思い出させる。 【視点1：課題意識の持続①】 個々のめあてを確認し、具体的なゴールを示す。	タイムタイマー(大) 紙板書 めあてシート 質問の例 名前カード	

	(2) 自分が何をがんばりたいか決める。	<ul style="list-style-type: none"> ・「大きい声で言いたい。」など全体的なめあてや「ありがとう、と言いたい」など具体的なことばをめあてにしてもよい。 ・考えが出ない時は、具体的な状況を想像させたり、前時のことを思い出させたりしながら考えるヒントを与える。 ・自分のがんばりたいことに名前カードを貼らせる。 ・T2はCの、T2はB・Cのサポートをする。T1が個々のめあてを読み上げる。 	
展開 25分	4 クイズをする。	<p>資・能：自分の考えをもち表現する場面</p> <ul style="list-style-type: none"> ・質問の例などを参考に、知りたい情報を得ようとする姿。 ・友達の質問に対するヒントを考え、伝える姿。 ・回答者は順番で全員行う。回答者以外は全員ヒント者となる。 ・ぬいぐるみを持っている人がヒントを出すことができる。 ・ぬいぐるみを持っている人がヒントを出せずパスする場合は、T1がぬいぐるみを預かり、周りの子に尋ねる。その後、状況に応じてぬいぐるみを渡す。 ・途中で、回答者がどんなことを質問するかとまどう場合は、質問の例を参考にさせるなど、T1が補助する。 <p>【視点1：課題意識の持続②】 自己肯定感を持たせる教具の工夫。 (グリーンカードの提示)</p> <p>【視点2：達成状況の把握①】 児童の言動をグリーンカード等で把握する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・良い姿をグリーンカードで広げる。 ・T2はCが答えを言ってしまわないよう見る。 ・1問3分程度を目安とするが、可能な限り全員回答者を経験させる。 	問題の絵 グリーンカード
終末 5分	5 振り返りをする。 (1) 今日のめあてについて自己評価のマークを貼る。	<p>【視点2：達成状況の把握②】 個人目標を理由と一緒に振り返らせることで、児童による自己評価を把握する。</p> <p>資・能：自分の考えをもち表現する場面</p> <p>自分の活動を思い出し、話型を参考にするなどして自己評価の理由を話す姿。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の名前の所に評価マークを貼らせる。 ・話型を表示し、自己評価の理由を話せるように図る。 ・例にあげたことばを使うことができたか、グリーンカードをもらったことなどを思い出させる。 ・自分の言ったことばを思い出せないときには、周囲の児童に、そばで聞いたことはないか、投げかける。 ・教師からの評価も伝える。 	評価マーク 話型シート
	6 あいさつをする。		

7 板書計画等

なかよくあそぶためには

ともだち きょうりよく
友達と協力してクイズの答えを考えよう。

しつもののれい

- ・大きさ
- ・かたち
- ・どんなときに使う

【がんばりたいこと】

聞こえる声で話す

順番を守る

ヒントをいっしょうけんめい考える

ていねいな言葉をつかう

クイズのルール

お題

じゅんばん

- 1、C
- 2、E
- 3、B
- 4、F
- 5、G
- 6、A
- 7、D

8 場の設定

会場：すずらん教室

黒板

回答者

C

D

E

A

B

G

F

ホワイトボード